



# 糸東小だより



平成26年5月20日

教育目標 やさしく かしく たくましく

5月号 No.2

## 親と子のコミュニケーション術その1

なかなか本当のことが聞けない、素直に自分の気持ちを表に出さない子どもたち。(大人の世界もそうですが・・・) 親なら一度は誰もが抱える問題です。私たち教員も、同じような問題に必ず出会います。そうした問題は、「何とかしたい」といった思いだけでは解決しません。子どもの悩みに寄り添い、一緒に解決を目指すには、「技」があります。

そこで、これから3回に分けて、近藤千恵さんの著書「『親業』に学ぶ子どもとの接し方」(企画社)と「親と子のコミュニケーション術」から引用しながら、その「技」を紹介していきます。

近藤さんは1945年生まれで、広島県出身です。親業訓練協会の理事長も務められ、日本の「親業」のリーダーとして活躍された方です。

予めお断りしておきますが、この「技」を使えば、全て問題解決というわけではありません。そんなものがあつたら、日本中の家庭の悩みはとっくに解決しています。これは、親子のよりよいコミュニケーションを目指す一つのヒントです。最近あつた親子の会話を思い浮かべながら、読んでください。そして納得がいったなら、活用してください。

第1回目は、子どもの言わんとするところ

をくみ取って話を聞く「能動的な聞き方」です。どんなことなのでしょう。

まずは右の問題に答えてください。

・

・

・

考えがまとまりましたか? 4コマ目の吹き出しにどんな言葉をいれましたか。

次のページに、親がよく投げがちがちなセリフの12のパターンを紹介しました。あてはまるものがあつたでしょうか。

### こんなとき、あなたは どうしますか。



### 1|命令



### 2|脅迫



### 3|説教



### 4|提案



### 5|理屈



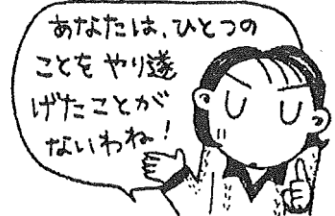
### 6|非難



### 7|同意



### 8|辱める



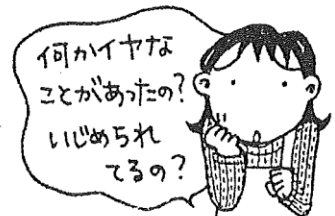
### 9|解釈



### 10|激励



### 11|尋問



### 12|ごまかし



親業では、これを「おきまりの12の型」とよんでいて、子どもが心を閉ざさず対応としています。それはなぜでしょうか。

「おきまりの12の型」は、親の言いたいことを子どもにぶつける対応の仕方です。子どもが「塾に行きたくない」という“白いボール”を投げてきたのに、親は親の気持ちの“緑のボール”を投げ返しています。これではキャッチボールは成り立ちません。親子のコミュニケーションに障害が起きることが分かります。

これでは、「親には分かってもらえない」「言っても無駄だ」「そっちがそういう気なら反撃してやる」と、子どもは心を閉ざしてしまいます。

もちろん、親が自分の考えを中心とした“緑のボール”を投げるのは、子どもによけいな悩みをもってほしくないから、子どものためには“緑のボール”が役立つだろうと思う親心からです。それとは裏腹に、子どもは先ほど述べたような感じ方をしているのです。

では、どう対応したらよかったのでしょうか。子どもが“白いボール”を投げてきたら、親も“白いボール”を返せばよかったのです。それが「能動的な聞き方」です。

具体的には2つの方法があります。

- ①子どもの言った言葉をくり返す、また自分の言葉に言い換える。
- ②そういう言葉を口にした子どもの気持ちをくんだ言葉を返す。

例題の「塾に行きたくない」であれば、

- ①「塾に行きたくないのね。」
- ②「塾に行くのがいやになっちゃったんだ。」

これで、“白いボール”を返したことになります。キャッチボールが成立です。子どもの気持ちを正確にキャッチする場ができました。

すると子どもは、「親が自分の言ったことを受け止めてくれた、理解してくれた」と分かって、心が開きやすくなります。きっと、ほっとするのでしょう。同時に、心のガードがいらなくなった子どもの思考はぐんぐん進みます。根堀り葉堀り聞き出そうとしなくても、自分の気持ちを語り、語りながら問題を落ち着いて振り返り、自ら解決策を考え出す余裕すら生まれます。

まだ半信半疑な方もいらっしゃることでしょう。そこで、もう一つ例を出します。

### 「運動会、いやだな」

運動会の数日前、「運動会、いやだな」とこぼす娘に能動的な聞き方で対応しました。

娘「運動会、いやだな。」

「運動会、いやなのね。」

娘「そう、いやなの。」

「泣きたいと思っているの？」

娘「そうじゃないけどさ・・・」

「出たくないわけじゃないけど、何かいやことがあるのね。」

娘「どうせ、私、走るの遅いもん！」

「遅いから走りたくないんだ。」

娘「そう。でもね、もっと遅い人もいるんだよ。それにさ、踊りがすごくヘタな人も。私、踊りは好きなの。踊りだけは絶対うまく踊れるんだ！」

「そっか！走るのはいやだけど、踊りには自信があるのね。」

娘「うん、走るのもあと少しで追い越せそうなんだよ。」

「そう。じゃがんばってね。」

「能動的な聞き方」をすると、母親が問いつめなくても、娘が素直に穏やかに自分の気持ちを話すようになったという例でした。この例の場合、それだけでなく、苦手な徒競走もがんばってみようという方向に話が進んでいきました。

引用・参照 近藤千恵「『親業』に学ぶ子どもとの接し方」1993 企画社

「家庭をガス抜き場にするケースステディ 親と子のコミュニケーション」

ここまで進めてこられて、いかがでしょうか？ 「やってみよう」という気持ちがわいてきたことでしょうか。「能動的な聞き方」は全然難しくないので。私たち大人が子どもの話を聞くと、一呼吸おいて、言葉を繰り返したり察した気持ちを伝えたりすればよいのです。ポイントは「一呼吸おいて」です。今日からの親子の会話に取り入れてください。

今回は、親と子のコミュニケーション術その2「自分の気持ちを率直に伝える“わたしメッセージ”」です。

ここでも前ページのイラスト「おきまりの12の型」があると便利です。できたら、とっておいてください。

(校長 佐藤 剛)

# 「安全・安心」が一番！

5月1日（木）、交通安全教室が行われました。目的は、1年生には道路の正しい歩き方や渡り方、2～3年生には正しく安全な自転車の乗り方を身に付けさせることです。各学年でDVD学習、実技指導が行われました。これは毎春に、行っているものですが、それは「安全・安心」が一番大切だからです。今年は、市役所環境生活課の大西さん、藤田さん、交通安全指導員の清岡さん、竹之内さんが指導に来てくださいました。おかげで、計画通りに実施できました。



## 指導で特に力を入れたこと

### <歩行>

○信号をしっかり守る。 ○信号が青でも、左右を確認する。 ○飛び出しをしない。

### <自転車の乗り方>

○自転車は左側から乗る。 ○前後の安全を確認して発進する。

○停止はスピードを落として左端に寄って止まる。 ○自転車の左側に降りる。

### <自転車の交差点の渡り方>

○直進：停止線で一旦止まり、後と左右の安全を確かめてから渡る。

○左折：停止線で止まり、前後と左右の安全を確かめてから、ゆっくり左へ回る。

○右折：停止線で止まり、前後と左右の安全を確かめてから、交差点の向こう側まで、まっすぐ進む。次に、右の方向へ自転車の向きを変えて、左右を確認して発信する。

## 6月1日(日)～6月30日(月)までの主な予定

2日(月)	PTA 執行部会、校外 指導部会	18日(水)	5年生自然体験教室 1日目
3日(火)	歯科検診	19日(木)	同上 2日目
6日(金)	クラブ発会式	24日(火)	全校算数テスト
12日(木)	委員会活動	26日(木)	ぎょう虫検査
13日(金)	クラブ活動①	27日(金)	3年生発表朝会
16日(月)	プール開き		6年生西海小との交流会 (初めての活動です。)

